

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691600052
法人名	社会福祉法人 博寿会
事業所名	グループホーム 高松みどりの里
所在地	鹿児島県曽於市末吉町諏訪方6875番地 (電話) 0986-76-7828
自己評価作成日	平成25年2月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年3月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は自然に恵まれ、家族の面会も多く、また、地域住民の方々がグラウンドゴルフの場として活用されるなど、人の出入りの多いところでもあります。今後はさらに地域交流を活発にすることで地域に根差し、利用者様が地域で暮らしていること、地域の一員である事業所になるように努力していきたいと思っております。

同敷地内には地域密着型の特別養護老人ホームが隣接しており、小規模多機能ホームが併設されており、環境の変化があまりなく在宅から入所サービスに移行でき、スムーズに入所できているケースが多い。また、小規模多機能ホーム利用者様との面会・交流の機会も多く、入所ゆえの閉塞感がなく過ごせるホームである。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・グループホームは、田園風景の美しい広い敷地に建っている。特別養護老人ホームや小規模多機能ホームが併設されており、職員間の交流や職員研修・利用者への幅広い支援等、施設間で協力関係にある。

・法人の理念のもと、「みどりの里の想い」を掲げ、理念を具体化した「基本ケア」マニュアルで、利用者の支援に活かしている。

・利用者一人ひとりに、担当職員を決めて細やかな支援を行っている。毎月発行の「みどりの新聞」の活用や「想いの日」では、本人の想いに添ったケアを行い、その人らしい暮らしを支援している。

・ホームとして地域の行事に積極的に参加したり、また、法人の行事の夏祭りやホームの敬老会・クリスマス会などに地域住民の参加が多く、地域との交流を大切にしている。

・地域に協力員がおり、地域の相談ごとの連携をとったり、運営推進委員会に参加している。非常時は近隣協力隊が機動力となり、ホームの安心・安全が確保されている。

・管理者は地域住民に、認知症の症状や介護についての相談を受け、地域に貢献している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人共通の『理念』『職員訓』及び『職員の誓い』を掲げている。また職員一同で法人理念に沿った『高松みどりの里の思い』の作成し、日々確認し業務にあたっている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念『みどりの里の思い』を作成し、日々の実践や月1回のミーティング・勉強会で確認し、職員が共有して取り組んでいる。基本ケアは毎年見直している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民の方々に協力員となって頂き、定期的に説明会を行っている。また周辺集落の方に庭を開放し、毎週グランドゴルフに活用されている。毎年の夏祭りにも地域の皆様に参加していただいている。 学生の職場体験やボランティアも受け入れている。	地域住民に、ホームの夏祭りや敬老会などの行事を案内したり、図書館も利用している。地域に協力員もいる。小学生やカラオケボランティアの来所がある。中学生や高校生の職場体験学習の受け入れをしている。庭を開放して、グランドゴルフなど地域住民が楽しむ等、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	利用希望者だけでなく、地域の方々の症状の相談や制度・施設の説明に努めている。 また、地域住民からなる協力員や近隣協力隊に、会議や訓練を通して介護技術や認知症の説明をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に開催し、地域住民代表、家族代表、行政の職員等に出席いただいている。</p> <p>利用状況の説明や意見要望を聞いている。</p> <p>職員へは議事録の閲覧や申し送りノートの活用にて伝達している。</p>	<p>会議には家族代表や地域代表・市担当者・職員等が参加し、利用状況の報告や利用者の対応などを報告し、意見交換を行い、出された意見は、サービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議の参加と共に、2カ月おきの連絡会への参加や随時相談をしている。</p>	<p>市の主催する連絡会やスキルアップ研修会に参加したり、運営推進会議でも話す機会がある。市担当課に事務連絡や相談に行ったり、ホームの現状を伝えながら協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束の勉強会を開催し、職員への周知徹底を行っている。</p> <p>玄関の施錠を含め、徐々に理解が浸透している。</p>	<p>高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を年2回実施し、全職員で拘束をしないケアに取り組み、言葉かけや気持ちの束縛などがないように支援している。日中の玄関の施錠はせずに、外出の気配を感じたら、職員が同行し、支援している。地域住民も見守りや声かけの協力をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を開催、他施設などでのメディアの情報を含め資料配布を行い注意喚起を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関するの勉強会を開催、資料配布を行い注意喚起を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約の際は、重要事項等の書類を含めた説明と、質問に答え理解を得られるように心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族への情報提供は、面会時や電話連絡にて行っており、また苑だよりを個人ごとに作成しており情報提供に活用している。 本人様との会話や、ご家族面会や連絡等にて意見・要望を確認している。	利用者とは、日常のケア時の会話で把握している。利用者毎に担当を決め、意見の聞き取りを細やかに行っている。家族とは連絡帳や苑便り・電話で、意見や要望を聴いている。出された意見は、委員会で検討して運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定期的に職員会議の開催や日頃からの関わりで、職員の意見を取り入れるように努力している。</p>	<p>職員会議やミーティングで把握したり、管理者は日頃から話しやすい雰囲気づくりに努力している。代表者もホームに来た時は、個別に職員と懇談し意見を聴いている。出された意見や提案は、話し合い運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>勤務状況や有資格を考慮した雇用形態のとるようにしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者とともに研修方法や機会の確保に努めている。 外部研修の機会の確保や、案内の紹介を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修案内等の文書類は回覧し情報提供している。 職員の経験や知識に応じて研修参加の機会を提供しているが、機会が増えるように努力が必要。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設の見学や自宅等の訪問を行い、事業所に対する理解をして頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学や自宅等の訪問を行い、事業所に対する理解をして頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、当事業所の利用に限らず、その方の状況に応じて介護サービスの説明や他事業所の案内も含めて行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に沿った目標『高松みどりの里の想い』を職員であげ、食事やお茶を一緒に行うことで、一緒に生活している『共同生活者』となるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族様へも、協力の必要性を説明し、ご協力いただいているが、ご家族と本人様の関係を活かしきれていない。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>『想いの日』と称した職員体制を作り、お墓参りや周辺地域へのドライブなど行っている。利用者様の個人台帳に、自宅周辺地図をつづり、地域性の理解を図るようにしている。</p>	<p>利用者が、これまで大切にしてきた人や場を把握し、個人台帳に記載して、1ヶ月に1回、1対1で利用者と墓参りや自宅周辺や地域をドライブしている。敷地内にグランドゴルフに来られる地域住民や併設のホームの利用者や面会に来られた方などと、親しく交流し、馴染みの人や場との関係が継続している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個々の性格も考慮した上での座席や役割などの生活環境を考えている。また、その時々利用者様の関係を、申し送り等にて職員で配慮し、その時でも対応している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約の終了後も、連絡をとったり担当の方と連絡を取っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意向を確認した上でのプラン立案や、日常の介護に努めている。  職員は出勤時に、全利用者に挨拶することとし、信頼関係の構築に努めている。	日々の生活の中で、利用者と言葉を交わしながら思いや希望を聞いている。家族からは、面会や電話を通じて情報を得ている。職員は、業務日誌や申し送りノートに記録して全体で話し合っている。毎月の職員会議でも、思いや意向を話し合い、本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントだけに限らず、会話や家族からの情報収集で、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	以前の生活状況を踏まえ、日々の生活状態を観察し、個々の生活リズムで過ごせるように努力している。 ライフサポート一覧を活用し、生活の個別性ができるように心がけている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向確認を行い、ミーティングにて評価・検討を行っている。</p>	<p>本人や家族・関係者の意見を聴いてミーティングで話し合い、計画担当者が介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に実施し、見直しは6ヶ月毎に行い、状況が変化した時は、随時見直し、現状に即した計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別に記録を記載し、その他に申し送り簿や日誌を作成し、情報の共有や評価につなげられるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>その時の状況に応じて、個別の外出や計画以外のケアなど、できるだけ対応できるように心掛けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアの参加や、家族以外の友人や知人の面会があるなど、地域に根付いた家になるように努力している。 図書館や道の駅など近い施設を活用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関はあるが、入所の主治医を継続するなど、希望や経緯を踏まえて支援している。</p> <p>受診後も電話や個別の苑便りで報告している。</p>	<p>かかりつけ医の受診を支援している。通院の場合は、職員が同行している。協力医療機関からの往診もあり、受診後は電話や苑だよりで診療経過を報告している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>定期受診・往診以外にも必要に応じ連絡を取り合っている。また、併設事業所の看護師との連携も行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時の面会や、家族の相談などに努めている。病院関係者とも、現状の確認や今後の方針について連絡を取り合っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>一定の基準を設けており、入所時や必要時に説明を行っている。</p>	<p>本人や家族に、重度化や終末期に向けた方針を、利用開始時や必要時に説明している。職員でも共有している。今後さらに再検討の計画がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>勉強会の開催や資料配布、研修の参加などにて、知識・技術の向上に努めているが、勉強の機会を増やしさらに理解を深める必要あり。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な消防訓練の開催や、近隣住民の方々に協力隊になって頂いている。</p>	<p>消防訓練は年1回、消火器の訓練や車椅子の移送など、近隣住民の協力隊と共に実施している。スプリンクラー、通報システム、地下水のタンクなど完備し、誘導経路も確保している。外部研修の救急訓練も受講している。災害時の水や食料などの備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>確立</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング等にて、人格を尊重した対応を行うように啓発している。 『基本ケア』のマニュアルを作成、認知症・権利擁護の勉強会を開催し、新職員への指導に活用し、1年おきに全職員で見直し、徹底するようにしている。	「基本ケア」マニュアルを作成して、認知症や権利擁護の勉強会に活用している。接遇・排泄・ユニットケアの基本などを勉強し、誇りやプライバシーを傷つけない対応を共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や飲み物など、本人様の嗜好・意向をくめるように、選択できる場を提供しており、できるだけ自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間など、個別の時間設定やその時の様子で実施している。集団生活にとられない個々の生活リズムの確立や、その時々意向に沿えるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個々の今まで使用されていたものを持ち込んで頂き、継続できるようにしている。 日常でも利用者様と職員と一緒に洋服を選択している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを利用者様と一緒に考えたり、味見を利用者様にさせていただき、調理でも皮むきや調理レクなど可能な作業を行える機会をできるだけ持つようになっている。その日の利用者の意見でメニュー変更することもある。	食事委員会を中心に、栄養士の助言を参考にメニューを考え、利用者ができることは職員と一緒に調理の準備を行っている。蕎麦うちや干し大根・ふくれ菓子づくり等をしたり、行事食や外食・バーベキュー・おにぎりづくり・道の駅で食材の購入等、一人ひとりの好みや力を活かして、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病気や嗜好をできるだけ考慮して、必要な食事・水分量が摂れるように努力している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、担当職員や排泄委員が中心となり、オムツの必要性も含め評価・検討している。	排泄チェック表や状況表で尿量などを確認し、排泄委員会を中心に自立に向けた支援をしている。排泄の基本ケアを参考に排泄コントロールの評価もしながら、個々のパターンに合わせた支援をしている。パットやパンツ使用で排泄の自立した利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し、担当職員や排泄つ委員が中心となり評価・検討している。また、状況に応じて医師や看護師へ報告・相談し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的な予定は組んでいるが、健康状態や気分、習慣を考慮して行っている。 好みにより入浴剤の使用や、近隣住民から頂いた果実を入れたお風呂なども行っている。	週に3回は入浴や清拭を行っている。時間の指定はしないで、その日の体調や気分で自由に入浴ができる。入浴を拒否される利用者には、介助人をかえたり、時間をずらして工夫している。入浴剤や柚子湯にすることもある。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間もまちまちで、個人のリズムやその時の状態で過ごして頂くように配慮している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	『薬の紹介』を個人台帳に綴り確認できるようにしており、新たな処方時は申し送りノートや口頭での伝達も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や希望を基に、ケアプランをはじめ、日々の生活や行事に取り入れている。 *家事や嗜好品など。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	苑外の外出は多くないが、広い苑庭での散歩や運動をできるだけするようにしている。 利用者様の意向により、食材や野菜・花の苗の買い物など職員とともに参加される。図書館の利用をされる方もいる。	日常的には、ホームの敷地が広く、グランドゴルフ場もあり、散歩や運動を行っている。利用者の希望で、職員と一緒に道の駅に食材や花の苗を買いに行ったり、桜見や食事会・ドライブ・墓参りに出かけることもある。町の芸能大会や地域の敬老会に参加するなど、季節折々に家族の協力を得て、支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員で管理しており、利用者様が支払いをする機会は確保できていない。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人様や家族の希望時は、いつでもできるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用生活スペースからは、外が眺められるようになっており、開放感がある空間となっている。利用者様がひなたぼっこや風にあたりたりされている。	天井が高く、外の景色も見えて解放的である。食堂も広く、食事をするテーブルが大きく、人との距離がとれて、ゆったりとした食事ができる。中庭があり、木々の新緑が眺められて季節感がある。照明も柔らかく室温や湿度も調節されており、気持ちよく落ち着ける空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースも、食事の場所・テレビの前のソファ、掘りごたつ式の畳などそれぞれが好みにより過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのベッド以外は自宅より持参して頂き、また写真や遺影の持参など個人の空間となるようにしている。	全室、トイレとベッドが設置され、お気に入りの小物や思い思いの写真を飾ってあり、我が家で過ごしているような快適な居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンも対面式でできるだけ参加できるようにしており、手すりの設置やバリアフリーにするなど活動の制限がないようにしている。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない